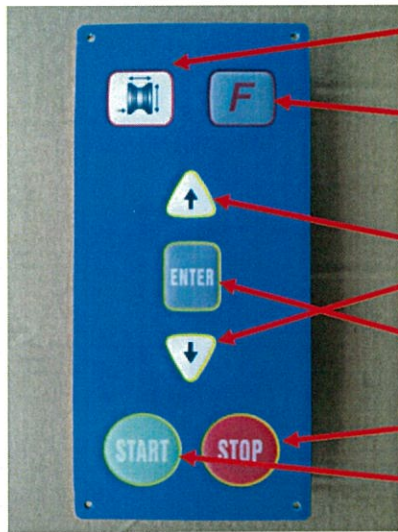
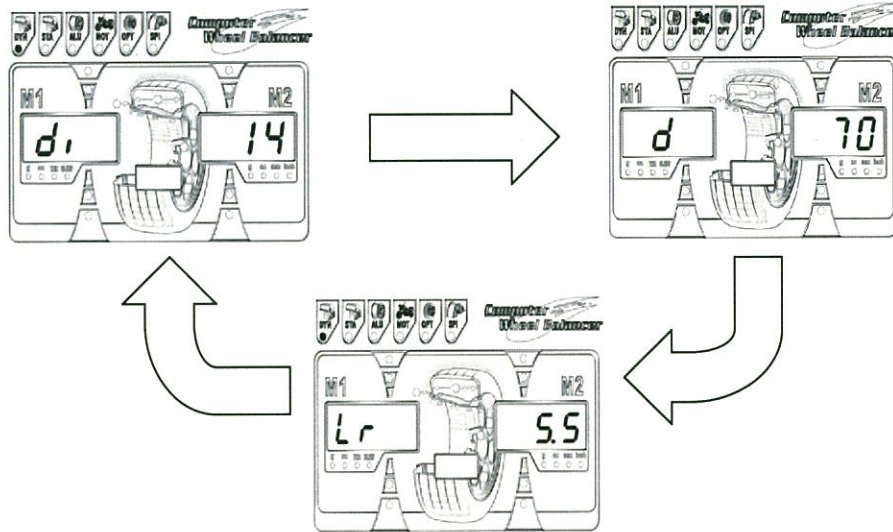


操作キーの説明



- データ入力キー
 - ①手動でデータ入力を行います
 - ②このキーを押す度に入力項目が切り替わります
- F キー
 - ①5g刻み表示と、1g刻み表示の切り替え
 - ②元に戻る(データ入力やサービスモード操作などから測定モードに戻ります)
- 矢印 キー
 - ①データ入力時データを上下させます
 - ②プログラム選択
- ENTER キー
 - ①操作を行ったものに対して決定を行います
- STOP キー
 - ①スピン(バランス測定)を停止します
- START キー
 - ①スピン(バランス測定)を開始します

上記データ入力キーを押す度に、下図の様に d_i (リム径)、 d (距離)、 L_r (リム幅)の順で切り替わります。



Err 10 : ディスタンスゲージが原点に戻っていない。

電源を入れた時、ディスタンスゲージが戻っているにもかかわらず、"Err 10"が消えず測定モードに入れない場合は、上記のデータ入力キーを押してデータ入力を行えば、手動入力での操作が可能になります。

Sb モードの説明

 または  キーを押してすぐに  データー入力キーを押して下さい。

左側の表示が Sb1、右側の表示が Ent、と表示されるので、

またすぐに  または  を押して、操作したい sb モードのところ、



ENTER キーを押して下さい。

Sb1 : ENTER キーを押す事によって「1 on」「1 of」を切り替える事が出来ます。
「1 on」にすると、表示方法を、1g 刻みで表示します。
「1 of」にすると、表示方法を、5g 刻みで表示し、4g 以下は、0g 表示されます。

Sb6 : 角度センサー(ポジション)の点検を行います。

Sb7 : ポテンシオメーターの点検、調整を行います。

CAL : キャリブレーション(較正)を行います。

Sb1

 または  キーを押してすぐに  データー入力キーを押して下さい。

ディスプレイ表示





ENTER キーを押して下さい。

ディスプレイ表示





ENTER キーを押して下さい。

ディスプレイ表示





F キーを押すと測定モードに戻ります。

(注)一度電源を切ると今までの設定が無効になり、1 of の状態に戻ります。

角度センサー(ポジション)の点検

Sb6

↑ または ↓ キーを押してすぐに  データ入力キーを押して下さい。

ディスプレイ表示  

↑ または ↓ キーを押して、Sb6 を表示させて下さい。


ディスプレイ表示  



ENTER キーを押して下さい。

(注)スイッチを押す間隔が長すぎると測定モードに戻ってしまいます。
000 000 表示に戻ってしまったら、再度やり直して下さい。

手でゆっくりフランジもしくはタイヤ、ホイールを時計回り方向に回し、000～255 が表示される事を確認して下さい。(最初のデータを読み込むのに時間がかかる場合があるので、少しの間回し続けて下さい。)

点検終了後、  F キーを押すと測定モードに戻ります。

ポテンシオメーターの点検

Sb7

↑ または ↓ キーを押してすぐに  データー入力キーを押して下さい。

ディスプレイ表示

Sb1 Ent

↑ または ↓ キーを押して、Sb7 を表示させて下さい。

ディスプレイ表示

Sb7 Ent



ENTER キーを押して下さい。

(注)スイッチを押す間隔が長すぎると測定モードに戻ってしまいます。
000 000 表示に戻ってしまったら、再度やり直して下さい。

ディスプレイ表示

di 010.

di はリム径ポテンシオメーターの数値です。
ディスタンスバーを手前に起こしてきて、010 ~ 255 間で数値が変化することを
確認して下さい。最小 : 9~10 最大 : 255



データー入力キーを押して下さい。

ディスプレイ表示

d 010.

d はディスタンス(距離)ポテンシオメーターの数値です。
ディスタンスバーを引き出し、010 ~ 255 間で数値が変化することを確認して下さい。

動作が正常であればポテンシオメーターが正常と判断できます。

もし数値が大きく飛んだり、数値が変化しない場合はポテンシオメーターが不良と
考えられます。ポテンシオメーターを交換して下さい。

点検終了後、



F キーを押すと測定モードに戻ります。

自動入力ポテンシオメーターの較正方法

本機が自動検出した故障NO "Er5 CAL" サイズに大きな誤差が出た場合や、"Err 10" が表示され除去する事ができない場合に、この数値較正を行って下さい。

まず本機に、13インチもしくは14インチのホイールをセットして下さい。



ENTER キーを長押しして下さい。(約6秒間)

左側の表示が、CAL に変わったら、押していた



ENTERキーを

一度離し、再度



ENTER キーを普通に押して下さい。

ディスプレイ表示



右側の表示 F F の両方が点滅し、ディスタンスバーが原点にある事を確認したら、



F キーを押して下さい。

ディスプレイ表示



右側の表示 F F の右側の F だけが点滅した事を確認したら、



データー入力キーを押して下さい。

ディスプレイ表示



↑ または ↓ キーを押して、現在付いているホイールのリム径データーに合わせて下さい。



F キーを押して下さい。

ディスプレイ表示



右側の表示 F F の右側の F だけが点滅した事を確認したら、

ディスタンスゲージを、リムの淵に接触させてください。

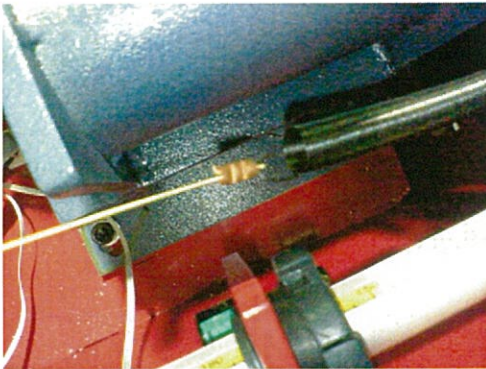


F キーを押して下さい。

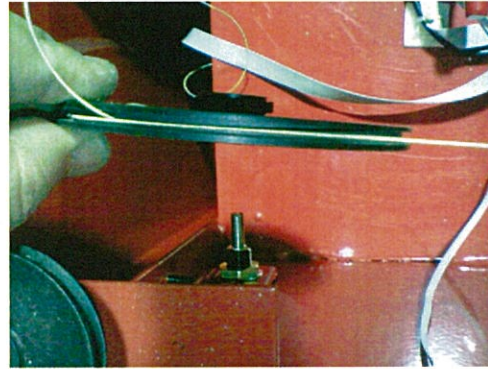
較正が終了すると、信号音が3回なります。ディスタンスゲージを元に戻してください。

(注意)"Err 20" が表示された場合は、ディスタンスゲージの位置が正確でないので、ディスタンスゲージを定位置に戻して、再度、較正を行って下さい。

YLB601ディスタンスワイヤー取り付け方法



①バネにワイヤーを引っ掛ける



②バネ側のワイヤーが滑車の上側になる



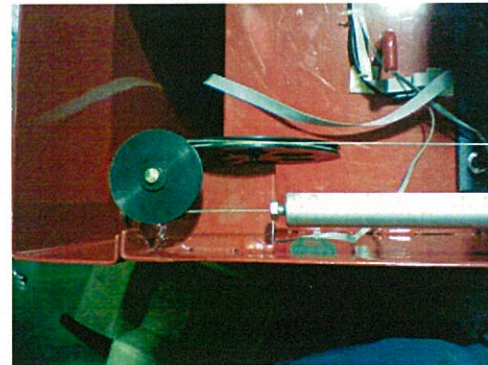
③ポテンショメーターの軸に滑車をはめ込む



④ボルトの付いた方のワイヤーを大きい方の滑車に時計回りに1回転巻きつける



⑤残りのワイヤーを小さいほうの滑車に反時計回りに半回転巻く



⑥ボルトを固定する



⑦滑車のつけ根にあるイモネジ2箇所を締め滑車を固定して完成

(注)ワイヤーの滑車からの長さ

ボルト側 455mm

バネ側 300mm







プラス折り返し分

ワイヤーを張り直したら必ずディスタンス
ポテンショメーターの調整と、
ディスタンス、リム径較正が必要です。

100 グラム校正方法 (Sbモード CAL)

準備










000 000 表示又は、F キーを押しクリアした後、

- ①、下向き矢印キー  を1回押し  位置にLEDを点灯させ、諸元キー  を押します。
- ②、ディスプレイに  が表示しますので、ENTER キーを押し  を表示させ、再度 ENTER キーを押してください。右側を  にします。F キーを押します。
- ③、正常な14インチ程度のタイヤ/ホイールをセットし、諸元を入力します。
- ④、スピンし、なるべく小さくインバランス量を修正して下さい。出来れば校正用のタイヤを用意して置くと便利です。

手順

1、000 000 表示又は、F キーを押しクリアした後、

下向き矢印キー  を1回押し  位置にLEDを点灯させ、諸元キー  を押します。

- 2、ディスプレイに  が表示しますので、もう一度  を押し  を表示させます。
- 3、ENTER キーを押しますと  が表示し直ぐに  GO が点滅します。
- 4、スタートキーを押しスピンします。
- 5、停止後  が表示しますので、手でタイヤを回転させ  表示箇所の真上(12時位置)インナー側に100グラムを取り付けてください。スピンスタート。
- 6、スピンし停止後、 が表示しますので、同様にアウトター  位置に取り付け変えます。
- 7、スピンします。停止後、数秒後にピー、ピー、ピー、とアラームが3回なり校正終了です。